

小・中・高校の12年間を通じて 教育課題を考え、語り合う

「Teachers' cafe」第1回ワークショップ報告

特集テーマである「キャリア教育」は、中学校段階だけでなく、小学校、高校と子どもの成長を連続的に捉えて、指導のあり方を考えることが大切であろう。そのような課題意識の下、ベネッセ教育総合研究所は、学校種を超えて先生方が語り合うワークショップを開催した。

学校種を超えて子どもの未来を考える

グローバル化や情報化など、今後の社会環境の変化に対応し、「生きる力」を育むためには、学校種を超えて、子どもの成長を連続的に捉えていくことが一層重要になる。教育現場ではこの必要性を踏まえた取り組みが行われており、『VIEW21』小・中・高校版でも、多くの小中連携、中高連携などの事例を紹介してきた。しかし、先生方へのアンケートなどから、自治体等の公的な働き掛けがないと、学校種を超えて先生方が直接語り合う機会を持つのはなかなか難しいことが見えてきた。

そこで、ベネッセ教育総合研究所は、小・中・高校の先生方がさまざまな教育テーマに

ワークショップの流れ

13:00 オリエンテーション、自己紹介

14:00 ワールドカフェ形式(*)で「現状を知り合う」

異なる学校種の先生4～5人でグループをつくり、語り合う。1テーマ2ラウンド、計4ラウンドを、各回グループを替えながら行った。

*ワールドカフェ形式：組み合わせを替えながら、少人数での会話を積み重ね、組織的な探求につなげていく対話の手法。

◎1・2ラウンド(各20分)

「12年間を通した学び」を考える上で小学校、中学校、高校それぞれについて、どんな「良さ」「問題点」を感じているか？

◎3・4ラウンド(各15分)

「12年間を通した学び」がどうなれば理想的だと思うか？ そのためには何が必要か？

15:40 休憩

15:50 「オピニオンをつくる」

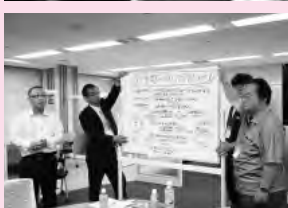
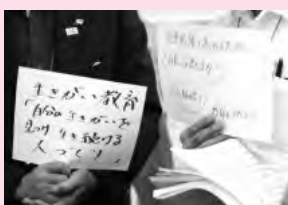
◎「12年間を通したより良い学びのために、教師(私たち)が出来ること」として、話し合いたいテーマを個々で考えて提示

◎テーマに沿ってチームを組み、チームごとにオピニオンをつくる

17:00 発表

◎5チームがそれぞれのオピニオンを発表

17:20 まとめ



Teachers' cafe

第1回ワークショップ概要

- ◎目的 小学校、中学校、高校の先生方が率直に語り合い、「12年間を通したより良い学びのために、教師が出来ること」を共に考え、現場教師発のオピニオンとしてウェブサイトなどを通じて発信すること
- ◎日時 2013年9月28日(土) 13～18時
- ◎参加者 全国の先生方19人
(小学校7人、中学校6人、高校・大学6人)
- ◎募集方法 『VIEW21』小学版・中学版・高校版の各読者モニターへのご案内など
- ◎会場 (株)ベネッセコーポレーション新宿オフィス
- ◎主催 ベネッセ教育総合研究所「Teachers' cafe」事務局
- ◎企画運営協力・当日ファシリテート 與良昌浩氏(株式会社もくてぎ)、宮崎圭介氏(株式会社スコラ・コンサルト)

社会を生きる力を育む——キャリア教育の視点で教育活動を捉え直す

ついて率直に語り合い、ワークショップなどを通じてオピニオンをつくり上げていく「Teachers' cafe」を企画した。

見えてきた小中高をつなぐキーワード

第1回ワークショップは「12年間を通したより良い学び」をテーマに、2013年9月に開催。全国から19人の先生方が参加した。やや緊張した先生方の雰囲気は、「現状を知り合う」セッションを機に変化していった。開始直後は、他の学校種に対する疑問や要望に偏りがちだった議論は、互いの状況や思いが分かるにつれ、連携して子どもを育むための検討になっていった。その後、個々の関心に沿って、「志」「学力保障」「生きぬく力」「学びの意欲」「キャリア教育」の5つのチームを編成し、12年間で実現させたいことやそのためのアイデアをオピニオンとしてまとめるところまで共通理解が進んだ。

議論が深まっていった背景には、「より良い学び」のためのキーワードを、学校種を超えて共有できたことがある。「学び続ける意欲」「自尊感情」「伝え合う力」「教師の専門性」など、学校種ごとに用いる言葉が違っていたとしても、目指す子どもの姿、そのための指導への課題意識や熱意は同じだと確認できた。それぞれの学校種でどのように指導し、12年間をつなげていくのかは今後の課題だ。今回の議論を生かしながら、先生方と共に考えていきたい。

ついて率直に語り合い、ワークショップなどを通じてオピニオンをつくり上げていく「Teachers' cafe」を企画した。

見えてきた小中高をつなぐキーワード

第1回ワークショップは「12年間を通したより良い学び」をテーマに、2013年9月に開催。全国から19人の先生方が参加した。やや緊張した先生方の雰囲気は、「現状を知り合う」セッションを機に変化していった。開始直後は、他の学校種に対する疑問や要望に偏りがちだった議論は、互いの状況や思いが分かるにつれ、連携して子どもを育むための検討になっていった。その後、個々の関心に沿って、「志」「学力保障」「生きぬく力」「学びの意欲」「キャリア教育」の5つのチームを編成し、12年間で実現させたいことやそのためのアイデアをオピニオンとしてまとめるところまで共通理解が進んだ。

議論が深まっていった背景には、「より良い学び」のためのキーワードを、学校種を超えて共有できたことがある。「学び続ける意欲」「自尊感情」「伝え合う力」「教師の専門性」など、学校種ごとに用いる言葉が違っていたとしても、目指す子どもの姿、そのための指導への課題意識や熱意は同じだと確認できた。それぞれの学校種でどのように指導し、12年間をつなげていくのかは今後の課題だ。今回の議論を生かしながら、先生方と共に考えていきたい。

当日の様子や先生方のオピニオンはウェブサイトで詳しくご覧いただけます!

ワークショップの様子や先生方が作成したオピニオンなどは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイト内「Teachers' cafe通信」に掲載しています。ご意見がございましたら、フェイスブックやツイッターでぜひお寄せください。また、2014年2月開催予定の第2回ワークショップについても随時お伝えしていきます。

<http://berd.benesse.jp/tcafe/>

ベネッセ教育総合研究所は幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校、大学の先生方を支援しています!

ベネッセ教育総合研究所は、園から大学までの教育・保育に携わる方々を対象とした教育情報誌を刊行しています。記事は全て、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトにPDFで掲載しています。ぜひ一度、ご覧ください。



<http://berd.benesse.jp/> > 教育情報

*新規での冊子のご送付のご依頼は承っていません。ご了承ください。

参加した先生方からのご意見・ご感想

◎「教師が率直に語り合い、オピニオンをつくる」ことは、とても大切だと思う。ポトムアップで「未来の教育」に貢献できるとしたら、教師冥利に尽きる。(栃木県/小学校)

◎異なる地域であっても、基本的に同じ方向性だと感じた。12年間を見通すためには、校種が違う先生方ともしっかりと踏み込んだ意見交換があるとよいと思う。(香川県/小学校)

◎ワークショップでは、時間が経つのが実に早く感じられた。今後、近隣の小・中学校で交流会があるので、この内容の一端は話し合いの中で還元していきたい。まずは、自分の足元から一步一步である。(北海道/中学校)

◎教育について多様な考え方があること、自分の知らないことが小学校や高校にたくさんあることを学んだ。出来れば、このような場を今後も設けてほしい。(岐阜県/中学校)

◎学校種の違いを感じることなく、いろいろな先生方と1日を過ごせた。さまざまな教育活動に取り組む先生方の情熱は同じものだからだろう。校種を超えて縦にもニューロンを伸ばしていけたら、私たち教師の努力は、よりストレートに生徒に届くと感じた。(岩手県/高校)

◎全国の先生方から大いに刺激を受けると共に、直面する一つひとつの課題を克服するためには校種を超えた協力が欠かせないことを実感した。これを機に先生方と連絡を取り合って小中高の連携のあり方を考えていきたい。

(福井県/高校)